

京の大人の英知、注入マガジン

# 京都 CF

[シー・エフ]

## BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手で送付いただければ、到着し次第ご送付いたします。

No.254

2005.2月号  
別冊京都CF!



特集  
京都に恋した、  
みなさまへ。

定価580円  
(送料124円/1冊の場合)

No.253

2005.1・2月  
合併号



特集  
京都駅まわり  
黄金地帯 (ゴールデンエリア)

定価350円  
(送料100円/1冊の場合)

No.252

2004.12月号



特集  
室町は  
飲食店街になるのか?①

定価350円  
(送料100円/1冊の場合)

No.251

2004.11月号



特集  
室町は  
飲食店街になるのか?①

定価350円  
(送料100円/1冊の場合)

### 年間定額購読

1年間分の「京都CF」を銀行引き落としにて、4,200円(内、消費税200円)で予約購読いただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

### フェイム事務局

〒804-8134 京都市中京区内丸通西丸太町二丁目2F

TEL: 075-256-7558 FAX: 075-256-7557

ホームページからもお申し込みできます。

<http://www.m21.or.jp/fame>

こっさり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。

## 結婚しなくても、ええんちゃう?

### ⑦ 結婚相談所のススメ

酒造メーカーに勤務するBさんは、35歳を境に結婚を意識しはじめた。が、一向に女性と出会うチャンスに恵まれない。そんな時、「結婚相談所に入ったら? 入会した僕の友達が、『結構、綺麗な女性に会える』って言ってたよ」と、軽く友人に言われた。だが、Bさんは結婚相談所に入ってまで結婚相手を探すことには、抵抗があったらしい。

それから約1年経ったある日、自宅のテーブルの上に結婚相談所のパンフレットが置いてあった。「誰かと付き合ってる? そろそろ結婚を考えると」と、Bさんは母親に結婚相談所の入会を勧められた、という。

「結婚相手に巡り会えへんのやったら、出会いの多い所に出没するしかないんとちゃう?」

会社の同僚の女性に対して「いいな」と思ったことは今までに何度かあった。「でも声がかけれなかった。かといって、合コンに参加する年齢でもない」と話すBさんに友人が、「何歳ぐらいの女性? タイプはどんな人?」とたずねると、「20代後半で、可愛いタイプ」と答えた。

自分で結婚相手を見つけれへん。その上相手の年齢・容姿に条件があるんやったらBさん、多少の抵抗があっても、結婚相談所をのぞいてみるのもええんちゃう。数軒の相談所を比べて、自分の向き不向きを考えてみたら、「結婚したい」と思ってるのやったら、自分でいろんな行動を起こさんとアカン。出会う場所にこだわっているうちは、結婚考えんでも、ええんちゃう。

### PROFILE

#### フジタタカコ

全日本ブライダル協会、ブライダルコンサルタント講師会員第一号資格取得後、結婚雑誌の編集長を経て、現在フリーのマリッジコーディネーター。「結婚水先案内人」として、様々なニーズに合った出合いをマネージメントしている。その他、パーティープロデュース、講演、執筆活動など、活躍の場は多岐に渡る。

問い合わせ先 ☎075-882-5635

<http://www.011.upp.so-net.ne.jp/mml/>



### 第十六幕 「おばけ」 編

## 嶋原司の こっさい 花語

### 太夫とは?

「正五位」の別荘で、歌舞曲の他、茶・菓・香・歌など公家や武家の奥方同様の知識を持った芸妓に与えられた妓女の最高官位のこと。現在は6花街のうち京都・嵯峨のみに4人現存し、司太夫はその内のお一方。中学卒業後延暦甲部で舞妓となり、6年間務めその後太夫への道に進む。芸事の他、日本画・写真・手話を勉強し、フリーペーパー「こっさい新聞」の発行やイベント企画など活動の場は広い。



司太夫が主催する「こっさいの会」では毎年おばけ(仮装)をして総勢約30人で町を練り歩く。祇園町や吉田神社を参った後は大仮装パーティー。写真は会津藩の薩刀(なぎなた) 薩に扮装した司太夫

京の風物詩  
町衆文化の  
おばけする?



Tsukasa

京の町衆文化に、「おばけ」と言うおもしろい風習がおす。その昔、年明けは節分の次の日「立春」が年明けとされてたんです。つまり「節分」は大晦日。この日に「おばけ」をして一年分の厄を落とし、気持ち新たに新年を迎えるというもんです。何でもよろしおす。自分でない者に「化ける」、これが「おばけ」どす。起源は古おすえ。平安時代、陰陽師全盛の頃、年が変わる一恵方が変わるといことは、神様が次の年の恵方へ大移動しはるゆうことどす。その大移動しはる節分の夜に、一瞬の隙を担って地獄から魍魎魍魎が駆け出てくると思われてたんです。そんな魍魎魍魎が自分に憑かへんように、仮装して鬼を化かしてたんです。それが町中に広まり、一般社会でもしはるようになった。50年ほど前までは壬生寺や吉田神社に行くと、テラホライはつたらしおすけど、今は廃れてもして花街とうちの仲間ですくらいしか残ってしまへん。けどやってみたいお人さんはしてみとおみやす。ご年配のお方さんらに会うと「いやぁ〜懐かしいな。ご苦労さん」と言われます。犬の大人が仮装して歩いていてもこの一言で通してくれる京の奥深さを感じますえ。

司事務所  
075-594-0568  
<http://kyoto.cool.ne.jp/tukasa21>